

切り花への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

5月の第2日曜日は「母の日」です。母の日の由来には諸説あり、国によって日にちも異なっているようですが、この日にカーネーションを母に贈る風習は、アメリカが起源と言われています。今年も花を贈った、もしくは贈られたという御家庭も多いのではないのでしょうか。そこで今回は、切り花への支出をみてみましょう。

母の日の支出は平均の約3倍

平成19年5月の切り花の1世帯当たり日別支出金額をみると、母の日の13日（約106円）は1日当たり支出金額の5月平均（約32円）の約3倍となっています（図1）。

また、前日の12日と合わせた支出金額は、5月の切り花の支出金額の約2割を占めています。

年間支出金額の1位は仙台市

次に、切り花の1世帯当たり年間支出金額（平成17～19年平均）を都道府県庁所在市別にみると、仙台市が15,518円と最も高く、次いで福島市15,505円、鹿児島市14,979円となっています（図2）。

世帯主の年齢とともに増加

最後に、世帯主の年齢階級別に1世帯当たり切り花の年間支出金額をみると、世帯主の年齢が60～69歳の世帯が最も多く、最も少ない30～39歳の世帯の約4倍となっています。これは、世帯主の年齢が高い世帯では、母の日のような特定の日に限らず、ご先祖様に供える切り花などを購入しているためとみられます（図3）。

図1 切り花の1世帯当たり日別支出金額
(平成19年5月)

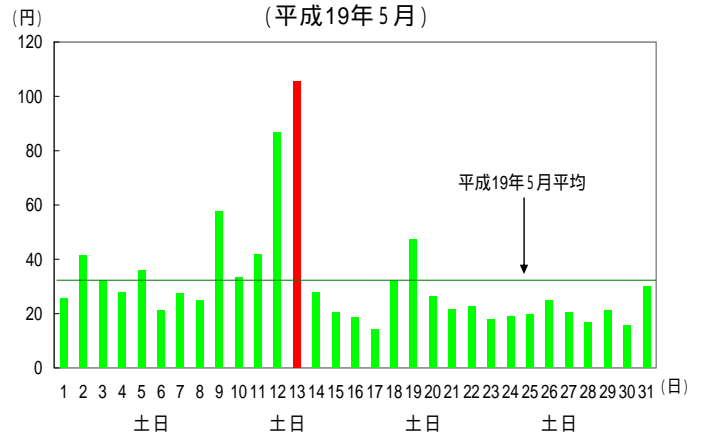


図2 切り花の1世帯当たり年間支出金額の
都道府県庁所在市別ランキング
(平成17～19年平均)

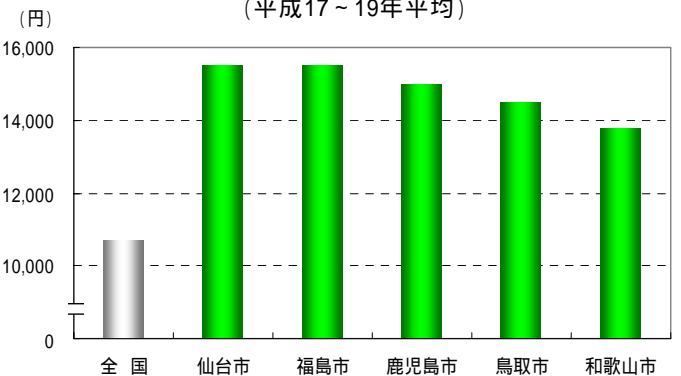


図3 切り花の世帯主の年齢階級別
1世帯当たり支出金額(平成19年)

